

平成 22 年度第 3 回札幌市入札・契約等審議委員会の審議概要

平成 22 年 12 月 1 日（水）18 時 00 分～19 時 45 分
札幌市役所 12 階 第 4 号会議室

1 開会

2 委員長あいさつ

3 報告事項

- (1) 平成 23・24 年度札幌市競争入札参加資格審査定時登録について
- (2) 平成 22 年度（9 月末）工事等発注状況について

4 抽出工事等の決定・審議

- (1) 福移小・福移中学校便所改修工事
- (2) ひまわり北 13 号線（ひまわり横 22 号線～ひまわり横 21 号線間）ほか 1 線生活道路整備工事

5 今後の開催予定

蟹江委員長より委員会の開催回数を 1 回増やす提案があり、各委員に了承された。

6 質疑応答

(1) 平成 23・24 年度札幌市競争入札参加資格審査定時登録について

（委員） 建築工種の等級別業者数を教えてもらいたい。

（事務局） 市内と市外の業者をあわせた数字は、A 1 が 140、A 2 が 61、B が 251、C が 162 者。市内業者のみだと、A 1 が 34、A 2 が 17、B が 177、C が 142 者いる。

（委員） 等級区分を変更することで、工事の分割発注の方法や考え方に何か変更はあるのか。

（事務局） 変更はない。

（委員） 競争が激しくなったことを理由に測量業の等級区分を 2 から 3 に増やすとのことだが、どのくらい競争が激しくなっているか具体的な数字はあるのか。

（事務局） 以前に 1 つの入札で 100 者ぐらい応札してきた事例があった。測量の B 等級と比べると A 等級のほうが市内業者の登録数が多く競争が激しいため、A 等級を 2 つに区分することで公平な競争性を確保したいと考えている。

（委員） 経常 J V（共同企業体）で登録できる工種数とは具体的には何か。

（事務局） 札幌市の場合、工種は全部で 21 工種。

そのうち土木、下水道、舗装、造園、建築、電気、管の 7 工種では等級格付を行っており、その中から 5 工種まで登録できるということである。

(委員) J V (共同企業体) を組むメリットとは何か。

(事務局) 技術者や機材の数が増えることで、単独では参加できなかったワンランク上の工事に参加することができる。

(2) 最低制限価格制度及び低入札価格調査制度について

(委員) 最低制限価格と調査基準価格の算定方法は同じか。

(事務局) 同じである。

(委員) 失格判断基準は、案件毎に異なるものなのか、それとも何か決まった基準があるのか。

(事務局) 直接工事費 80%、共通仮設費 70%、現場管理費 80%、一般管理費 40%、それぞれの項目で1つでも下回った場合に失格としている。品質確保ができない、下請業者へのしわ寄せになるという基準としている。

(3) 平成 22 年度 (9 月末) 工事等発注状況について

(委員) 9 月末までの状況が報告されているが、これから発注されるものはあるのか。

(事務局) 早期発注を目指しているため、ほとんどの発注は終わっている。これから出てくるとすれば、建築関係や来年度の工事に向けた設計業務が考えられる。

(委員) 工事については、くじ引きの発生割合が非常に減っている。一方、業務については、制度の見直しをした割には、くじ引きが減っていないが、これについてはどう考えているか。

(事務局) 工事については、くじ引き発生率が昨年度と比べると 3 分の 1 程度に減少している。これは、予定価格の事後公表やくじ引き回避策による効果が出ていると考えている。特に予定価格の事後公表を実施した影響が大きいと考えている。

業務については、以前から予定価格を事後公表としていた。

最低制限価格の算定方法を定率から積み上げ方式に変更したことで、くじ引き発生率が減少すると期待していたが、結果としてそれほど減少しなかった。

これは、工事と比べると積算が簡単だということが理由だと考えている。

(委員) 積算が簡単ということか。

(事務局) 積算基準を公表していること、工事と比べると積算に必要な項目数が少ないことから積算は難しくないと考えている。

業種でいえば測量、地質調査でくじ引きが多く発生している。設計についてはくじ引きが少ない。

くじ引きそのものは、それほど減少していないが制度改正を行ったことで、例えば測量で考えると、昨年までは 20 者以上のくじ引きが多かったが、今は 10 者未満のくじ引きが多くなっており、昨年度とは状況が変化している。

(委員) 落札率が上昇しているのはなぜか。

(事務局) 緊急経済対策として、昨年度に2回、最低制限価格の引き上げを行ったためである。

(3) 抽出工事等の決定・審議

ア 福移小・福移中学校便所改修工事

(委員) 再度入札の場合、翌日に2回目の入札を行うということだが、この時の入札は無積算になるのではないか。

(事務局) どの程度、価格を落とせるか各々が判断した結果と考えている。

(委員) 再度入札の仕組みは札幌市に限らず、他でも同じか。

(事務局) 同じである。

(委員) 3回目の入札で落札しなかった場合は、どうするのか。

(事務局) 施工担当課に確認のうえ、再告示するのか、それとも取りやめるのかを判断する。入札の最低価格が予定価格とわずかの差であれば、最低価格で入札を行った者と随意契約を行うこともあり、様々である。

(委員) 3回目の入札を行い不調になる場合とは、どのようなケースか。

(事務局) 3回とも予定価格をオーバーしているケースと入札価格を下げすぎて、失格となるケースが考えられる。

イ ひまわり北13号線(ひまわり横22号線～ひまわり横21号線間)ほか1線生活道路整備工事

(委員) 工事成績平均点が77点以上という参加条件で、工事が終わった時の成績点も77点だったということだが、この点数は高いのか。

(事務局) 65点が基準点になるため、高い点数である。

(委員) 予定どおりの品質だったら65点ということか。

(事務局) 品質確保ができれば65点なので、77点という点数は高い。なお、参加条件である77点以上で入札に参加できる業者は37者である。

(委員) 77点以上という参加条件をつけることで、入札に参加できない業者は、どれくらいいるのか。

(事務局) 土木Bの市内業者の登録数は240者で、入札に参加できる業者が37者なので、200者以上は参加できない。

(委員) 成績重視型の場合、過去5年間の工事成績点を評価するとのことだが、この5年という数字の妥当性はどうか。

競争が激しくなっている中で、5年のスパンを考えると、いい成果を出したとしてもすぐには反映されてこないのではないか。

(事務局) 年数の設定については、色々と考え方があがるが、仮に2年、3年という短いスパンにすると実績がない業者が出てくる可能性がある。札幌市としては、そういった業者にも対応したいと考え5年としている。

(委員) 成績重視型の場合の点数の線引きは、トップ30くらいを対象としているのか。

- (事務局) 入札に参加できる業者を 20 者確保できる点数で設定する。
- (委員) 成績重視型とするかどうかの判断はどのように行っているのか。
- (事務局) 施工担当課で工事の内容などを総合的に判断して、成績重視型にするかどうかを判断している。